

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								備考
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン エドガワガクエン 学校法人 江戸川学園							
フリガナ大学の名称	エドガワダイガク 江戸川大学 (Edogawa University)							
大学本部の位置	千葉県流山市駒木474							
大学の目的	<p>本学は、「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成」をめざした、いわば「人間陶冶」を教育の理念に掲げており、この理念の下、教育基本法ならびに学校教育法の理念に則り、建学の精神のもと広く知識を授けるとともに専門の社会学、心理学、教育学等の思想と理念をきわめ、これを実践の場に移しうる能力と豊かな人間性をかねそなえた人材を養成することを目的としている。</p>							
新設学部等の目的	<p>幼児期の教育・保育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものである。幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的としている。また、幼稚園における教師や保育所における保育士とは、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい環境を創造するよう努める存在である。そこで、このことを前提とし、本学科では以下の人材養成をめざすこととしている。</p> <p>①豊かな人間性を基礎に、教育に使命感や情熱を持ち、探求力を持ち学び続ける人材 ②専門分野に関する高度な知識・技能を持ち、子どもの最善の利益を考慮し実践できる人材 ③自らのコミュニケーション能力や対人関係能力をより一層高いものとし、同僚・保護者・学校や保育支援に関わる関係者との協力関係を構築できる人材</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	メディアコミュニケーション学部 [college of Media and Communication] こどもコミュニケーション学科 [Department of Childhood and Communication Studies]	年	人	年次人	人	学士(教育学)	年月 第 年次	千葉県流山市駒木474
	計	4	60	—	240		平成26年 第1年次	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 マス・コミュニケーション学科 [定員減] (△ 30) 情報文化学科 [定員減] (△ 20)</p> <p>社会学部 人間心理学科 [定員増] (10) 現代社会学科 [定員減] (△ 20)</p>							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科		66科目	64科目	12科目	142科目	128単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科		7人 (7)	5人 (4)	2人 (2)	0人 (0)	14人 (13)	0人 (0)	18人 (16)
		計		7 (7)	5 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (13)	0 (0)	18 (16)
	既設	メディア・コミュニケーション学部 マス・コミュニケーション学科		10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	35 (35)
		メディア・コミュニケーション学部 情報文化学科		8 (8)	3 (3)	1 (2)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	30 (30)
		社会学部 人間心理学科		12 (10)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (13)	0 (0)	48 (48)
		社会学部 現代社会学科		8 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	47 (47)
		社会学部 経営社会学科		10 (10)	3 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (16)	0 (0)	37 (37)
	計		48 (45)	12 (14)	6 (7)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	85 (85)	
合計		55 (52)	17 (18)	8 (9)	0 (0)	80 (79)	0 (0)	103 (101)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		30人 (29)		35人 (35)		65人 (64)			
	技術職員		0 (0)		3 (3)		3 (3)			
	図書館専門職員		0 (0)		12 (12)		12 (12)			
	その他の職員		1 (1)		9 (9)		10 (10)			
	計		31 (30)		59 (59)		90 (89)			
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地		42,306㎡	0㎡	0㎡		42,306㎡			
	運動場用地		30,282㎡	0㎡	0㎡		30,282㎡			
	小計		72,588㎡	0㎡	0㎡		72,588㎡			
	その他		0㎡	0㎡	0㎡		0㎡			
	合計		72,588㎡	0㎡	0㎡		72,588㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		30,984㎡ (30,984㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		30,984㎡ (30,984㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	30室	32室	19室	5室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科			14室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標本	大学全体での共用分 図書： 241,996冊 機器： 3,946点			
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル							
		冊	種	[うち外国書]							
	メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科	1,600 [200] (1,600 [200])	30 [10] (30 [10])	10 [10] (10 [10])	114 (114)	327 (327)	0 (0)				
	計	1,600 [200] (1,600 [200])	30 [10] (30 [10])	10 [10] (10 [10])	114 (114)	327 (327)	0 (0)				
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		7,244㎡		280		270,000冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		(第一体育館) 846㎡		—							
		(第二体育館) 1,998㎡		—							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの整備費及び運用コストを含む。	
		教員1人当り研究費等	教授		500千円	500千円	500千円	500千円	—千円		—千円
			准教授		450千円	450千円	450千円	450千円	—千円		—千円
			講師		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円		—千円
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
		図書購入費	15,100千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円		
	設備購入費	63,126千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円			
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,499千円	1,123千円	1,123千円	1,123千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
既設大学等の状況	大学の名称	江戸川大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	社会学部								千葉県流山市 駒木474		
	人間心理学科	4	100	0	400	学士(心理学)	1.10	平成18年度			
	現代社会学科	4	100	0	400	学士(社会学)	0.55	平成18年度			
経営社会学科	4	120	0	480	学士(社会学)	1.03	平成18年度				
メディアコミュニケーション学部								千葉県流山市 駒木474			
マス・コミュニケーション学科	4	130	0	520	学士(社会学)	0.88	平成18年度				
情報文化学科	4	100	0	400	学士(社会学)	0.70	平成18年度				

<p>附属施設の概要</p>	<p>1. 名称：語学教育研究所 目的：語学教育に関する教育研究及び教材開発等行なう 設置年月：平成19年4月1日 所在地：千葉県流山市駒木474 構成員：本学専任教員6名が併任</p> <p>2. 名称：情報教育研究所 目的：情報に関する教育研究及び情報環境の整備等に資する 設置年月：平成19年4月1日 所在地：千葉県流山市駒木474 構成員：本学専任教員9名が併任</p> <p>3. 名称：スポーツビジネス研究所 目的：スポーツビジネス及びスポーツ環境のデザイン等に関する教育研究を行なう。 設置年月：平成19年4月1日 所在地：千葉県流山市駒木474 構成員：本学専任教員8名が併任</p> <p>4. 名称：睡眠研究所 目的：睡眠に関する研究 設置年月：平成19年4月1日 所在地：千葉県流山市駒木474 構成員：本学専任教員4名が併任</p> <p>5. 名称：国立公園研究所 目的：内外の国立公園に関する研究の推進と国立公園関係者の交流の 活発化を通じて国立公園の保護および利用の質の向上と活性化 に寄与する。 設置年月：平成25年4月1日 所在地：千葉県流山市駒木474 構成員：本学専任教員3名が併任</p>	
----------------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
1群	基幹科目群	基礎ゼミナール	1前	2				○		7	4	2						
		Reading & Speaking I	1前		2				○									兼1
		Reading & Speaking II	1後		2				○									兼1
		Listening & Writing I	1前		2				○									兼1
		Listening & Writing II	1後		2				○									兼1
		ニュージーランド研修英語	1前		2				○		1							
		韓国語 I	1前		2				○									兼1
		韓国語 II	1後		2				○									兼1
		中国語 I	1前		2				○									兼1
		中国語 II	1後		2				○									兼1
		フランス語 I	1前		2				○									兼1
		フランス語 II	1後		2				○									兼1
		日本語 I	1前		2				○		1							
		日本語 II	1後		2				○		1							
		日本語 III	1前		2				○		1							
		日本語 IV	1後		2				○		1							
		日本語 V	1前		2				○									兼1
		日本語 VI	1後		2				○									兼1
		日本事情 I	1前		2				○									兼1
		日本事情 II	1後		2				○									兼1
		情報リテラシー	1前	2					○			1						
		情報社会とメディア	1後		2				○		1							
		情報技能演習 I	1前		2					○		1						
		情報技能演習 II	1後		2					○		1						
		ことばと表現 (書きことば)	1前		2				○		1							
		ことばと表現 (話しことば)	1後		2				○		1							
		社会学概論 I	1前		2				○									兼1
		社会学概論 II	1後		2				○									兼1
		哲学概論	1前		2				○									兼1
		法学概論	1後		2				○									兼1
		経済学概論	1前		2				○									兼1
		政治学概論	1前		2				○									兼1
		自然科学概論	1前		2				○									兼1
		数学概論	1前		2				○									兼1
		生物学概論	1後		2				○									兼1
		日本国憲法	1前	2					○									兼1
		日本経済論	1後		2				○									兼1
		日本政治論	1後		2				○									兼1
		国際社会と日本	1後		2				○									兼1
		科学と社会	1後		2				○									兼1
		現代の社会福祉	1後		2				○									兼1
		文化人類学概論	1前		2				○									兼1
		ヨーロッパの文化	1前		2				○									兼1
		アメリカの文化	1後		2				○									兼1
		アジア・オセアニアの文化	1後		2				○									兼1
		異文化コミュニケーション	1前		2				○									兼1
		健康・スポーツ科学	1前	2					○			1						※実技
小計 (47科目)		—	8	86	0		—		7	4	2	0	0		兼19	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
1群	地域連携系	地域ボランティアプログラムA	1前	2				○	1						集中	
		地域ボランティアプログラムB	2後		2			○	1						集中	
	地域ボランティアプログラムC	3後		2				○	1					集中		
	キャリア系	キャリアデザイン・基礎	1通		4		○								兼1	
		キャリアデザイン・応用	2前		2		○								兼1	
		キャリアデザイン・総合I	3前		2		○								兼1	
		キャリアデザイン・総合II	3後		2		○		1							
		インターンシップ	3後		2				○	1						集中
小計(8科目)		—	2	16	0	—			2	0	0	0	0	兼2	—	
2群	メディア科目群	メディア活用論I	1前	2			○		1							
		メディア活用論II	1後		2		○		1							
		こども教材開発論	3前		2		○		1							
		こども教材開発演習	3後		2			○		1	1					
		こども情報測定評価論	3後	2		2		○		1						
		こども放送番組論	3前		2		○		1							
	小計(6科目)		—	4	8	0	—			1	1	0	0	0	0	—
	コミュニケーション科目群	こどもコミュニケーション論	1後	2			○				2				兼1	オムニバス
		コミュニケーションの心理学	2前	2			○				1					
		こどもの観察と分析	2通		4		○				1	1				
		グループアプローチ	2後	2				○				1				
		こどもと読み聞かせ・児童文学	2前	2				○		1						
		こどもと読み聞かせ・絵本	2後		2			○		1						
		こどもと読み聞かせ・メディア	3後		2			○				1				
		こどもと文学	1後		2		○			1						
		詩歌創作	2前	2		2		○		1						
こども演劇創作演習		2後		2			○		1							
こども文学創作演習		3後		2			○		1							
English Communicative Activities I		2前		2			○		1							
English Communicative Activities II		2後		2			○		1							
English Communicative Activities III	2後		2			○		1								
English LR Reading I	1前	2				○		1								
English LR Reading II	1後		2			○		1								
小計(16科目)		—	10	24	0	—			4	2	2	0	0	兼1	—	
フリースタイル科目群	生涯学習論	1前		2		○			1							
	グループ体験	2前	2					○	1							
	海外こども事情体験A(ニュージーランド)	1通		4				○			1			兼1	集中	
	海外こども事情体験B	2通		4				○		1				集中		
	環境と教育	2前		2		○			1							
	社会調査法I	3前		2		○				1					兼1	
	社会調査法II	3後		2		○									兼1	
	社会調査演習	3後		2				○							兼1	
小計(8科目)		—	2	18	0	—			2	2	1	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
こども理解基礎科目群	保育原理	1前	2			○				1					
	教育学概論(初等)	1前	2			○			1						
	教育制度論(初等)	1後	2			○			1						
	児童家庭福祉	2前	2			○									兼1
	社会福祉	1後	2			○									兼1
	相談援助	2後		2			○								兼1
	社会的養護	1後		2			○								兼1
	保育者論	1後	2				○			1					
	保育の心理学	1前	2				○				1				
	幼児理解	1後	2					○				1			
	こどもの保健A	2通		4			○								兼1
	こどもの保健B	3前		2				○							兼1
	こどもの食と栄養	3前		2				○							兼1
	家庭支援論	3前		2				○							兼1
小計(14科目)	—		16	14	0				1	1	1	0	0	兼4	—
2群 実践支援科目群	保育課程論	2前	2			○				1					
	保育内容総論	2後	2					○			1				
	健康	2後	2					○			1				
	人間関係	2前	2					○			1				
	環境	2前	2					○			1				
	言葉	2前	2					○		1					
	表現(音楽)	2前	2					○							兼1
	表現(制作)	2前	2					○							兼1
	国語	2後		2			○			1					
	算数	2前		2			○			1					
	生活	2後		2			○			1					
	体育	2前		2			○				1				
	乳児保育	3後		2				○			1				
	障害児保育	3後		2				○		1					
社会的養護内容	3前		2				○							兼1	
保育相談支援	3後	2					○			1					
教育方法学(初等)	2前	2				○			1						
小計(17科目)	—		20	14	0				4	4	1	0	0	兼3	—
実技科目群	身体表現の技術	2後		2				○							
	声楽表現の技術A	1前	2					○			1				兼1
	声楽表現の技術B	2前		2				○							兼1
	器楽表現の技術A	1後	2					○							兼1
	器楽表現の技術B	2後		2				○							兼1
	造形表現の技術A	1前	2					○							兼1
	造形表現の技術B	2後		2				○							兼1
	絵画表現の技術A	1後	2					○							兼1
	絵画表現の技術B	2後		2				○							兼1
	言語表現の技術	2後		2				○		1					
	総合表現演習I(演劇)	2前		2				○		1					
総合表現演習II(オペレッタ)	3後		2				○							兼1	
小計(12科目)	—		8	16	0				1	1	0	0	0	兼2	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
2群	実習科目群	保育実習Ⅰ	3通	4				○		1	2				集中
		保育実習指導Ⅰ	3前	2				○		1	2				集中
		保育実習Ⅱ	3通	2					○	1	1				集中
		保育実習指導Ⅱ	3前	2				○		1	1				集中
		保育実習Ⅲ	4通	2					○		1				集中
		保育実習指導Ⅲ	4前	2					○		1				集中
		教育実習（幼稚園）	4通	4					○	1	1				集中
		教育実習事前・事後指導（幼稚園）	4前	2					○	1	1				集中
	小計（8科目）	—	0	20	0			—	1	2	2	0	0	0	—
	実践演習	教育・保育実践演習	4後	2					○	1	1	1			
小計（1科目）		—	2	0	0			—	1	1	1	0	0	0	—
3群	こどもコミュニケーション基礎	1後	2					○	7	4	2				
	こどもコミュニケーション演習（野外指導）	2通	2					○	5	3	2			集中	
	こどもコミュニケーション実習（野外指導）	3通	2					○	5	3	2			集中	
	専門ゼミナール	3通	4					○	6	4	1				
	卒業研究	4通	4					○	6	4	1				
小計（5科目）	—	14	0	0			—	7	4	2	0	0	0	—	
合計（140科目）		—	86	216	0			—	7	5	2	0	0	兼22	—
学位又は称号		学士（教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業所要単位：必修86単位、選択必修18単位を含む選択42単位以上、合計128単位以上 ・語学系科目のうち「Reading & SpeakingⅠ」、「Reading & SpeakingⅡ」、「Listening & WritingⅠ」、「Listening & WritingⅡ」の4科目のうちから2単位以上修得。 ・語学系科目のうち「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本語Ⅴ」、「日本語Ⅵ」、「日本事情Ⅰ」、「日本事情Ⅱ」は留学生のみ履修可能。 ・実践支援科目群のうち「国語、算数、生活、体育、乳児保育、社会的養護内容」から8単位以上修得。 ・実技科目群から必修単位を含め16単位以上修得。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間））							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
1群 科目	基幹 科目群	基礎ゼミナール	この授業の目的は、(1) 高校生と大学生の違いを理解し、大学生活4年間のイメージを作る。(2) 社会人となるために必要なことがらを理解し、その基本を身に付ける、の二点ある。そのために、具体的には次の3つのスキルの習得を通して目標達成を目指す。(a) アカデミックスキル(大学生としての勉強方法の習得。その基礎としての日本語能力の向上)(b) ソーシャルスキル(基本的社会常識の習得。コミュニケーションスキルの向上)(c) スチューデントスキル(江戸川大学での4年間のイメージを獲得する。グループ作業を通じて、助け合い伸ばしあう友人を作る)。	
1群 科目	基幹 科目群	語学系 Reading & Speaking I	英語習得には豊富なインプットを得ることおよびアウトプットを行うことが重要である。学習者がレベルに応じて選べるリーディング教材(英語多読用教材等)を利用してインプットを増やすこと、インプットをもとに英語での発話を促すことを目的とする。本を読み、随時、音読、free quick writing、free talkingなどの活動を行い、リーディング力とスピーキング力の基礎を身につける。	
1群 科目	基幹 科目群	語学系 Reading & Speaking II	Reading & Speaking Iの成果を踏まえ、発話内容を広げながら、プレゼンテーションやディスカッションなど豊かなアウトプットにつなげることを目的とする。本を読み、随時、音読、free quick writing、free talkingなどの活動を行い、リーディング力とスピーキング力の向上を図る。	
1群 科目	基幹 科目群	語学系 Listning & Writing I	短い文章を聴きながらメモをとり、パートナーと協力してもとの文章の内容を再生する活動(ディクトグロス)を行い、リスニング、ライティング、文法力を養成する。聴解力を養成すると同時に、もとの文と再生文の違いを意味と形式の両方に注意を払いながら比較することで気づきを促し、文法に注意を向けさせる。	
1群 科目	基幹 科目群	語学系 Listning & Writing II	Listning & Writing Iの成果を踏まえ、意味内容を考えながら文章を再生することでライティング力を養う。正確に意味を理解するためには意味と形式がつながる必要があり、形式(文法)に対する気づきを促すことで、形式的な理解が深まり(フォーカス・オン・フォーム)英語力の向上を図ることができる。	
1群 科目	基幹 科目群	語学系 ニュージーランド研修英語	ニュージーランドの大学における語学研修、ホームステイという体験研修をとおして、英語や文化についての体験的理解を深める。異文化を知ることとは日本を知ることでもある。研修が実施されるのは8月末から9月中旬にかけての3週間であるが、前期の事前研修では、ニュージーランドの生活・習慣について学び、英語コミュニケーション力の向上を図る。後期の事後研修では、体験を振り返りながら、ニュージーランドを含むオセアニアの文化・歴史に対する理解を深めるとともに、英語力をさらに維持・向上させるための学習や活動に取り組む。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	語学系	韓国語Ⅰ	簡単なあいさつや、韓国語の文字である「ハングル」から始める。特にハングルは韓国語学習の基礎になるため、読み書きを丁寧に説明し、身につけてもらう。そのうえで自己紹介や家族、数字などの簡単な表現を学ぶ。	
1群科目	基幹科目群	語学系	韓国語Ⅱ	ハングルの読み書きができて、簡単な動詞や名詞などの学習を確かなものにし、読む・書く・聞く・話すといった、韓国語の総合的学習を通して、韓国語の基礎を築く。数字、時間の言い方、過去形を用いた表現などを学習し、会話力を養成する。	
1群科目	基幹科目群	語学系	中国語Ⅰ	中国語の会話を学ぼうとする初心者向けに、目・口・耳を使って、基本的な表現を繰り返し練習し、会話、トレーニングとヒアリングの練習で、中国語の基礎文法知識を着実に身につけていくことにより、初歩の段階から中国語を話す楽しさを知る。初歩的な中国語でコミュニケーションができるようになることを目標とする。	
1群科目	基幹科目群	語学系	中国語Ⅱ	中国語の会話力を身につけたい初心者向けに、日本人が中国で出会った場面を想定した会話文例をマスターし、さらに繰り返し練習によって、口慣らしをし、会話の基礎を固める。一人で中国に行った場面を想定し、自然な中国語で対応できるようになることを目標とする。	
1群科目	基幹科目群	語学系	フランス語Ⅰ	フランス語の最初歩を学ぶ。「Ⅰ」の授業はことばの仕組み(文法)の理解を第一の目標にして進める。初学者が理解・習得しやすくするため、詰め込み方式はとらず、毎回のテーマを一つから二つに絞り込み、反復するというやり方をとる。第二の目標は発音の基礎を身につけることである。学習意欲に弾みをつけるのは発音である。15回の授業の中で、実用上十分な知識を身につける。フランス語を学ぶことによって、ものの見方がいい方へ変わった、となることを望む。	
1群科目	基幹科目群	語学系	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」に引き続き初歩のレベルの科目であるが、「フランス語Ⅱ」では、語彙、表現の習得に重点を置く。複雑な交渉事をこなせる語学力ではなく、旅行に出て、簡単な挨拶のみならず、一通りの行動をとるのに必要なだけの言い回しを習得することを目標とする。この授業の内容を習得すると、フランス語検定の5級あるいは4級に相当する語彙力、構文力が獲得できる見込みである。また、言語が違えば、見える世界も違ってくるといった発見ができることも、受講生への望みである。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅰ	文法事項や語彙の整理と、新聞記事を読むことをほぼ交互に行う。大部の文章をスキャンし、必要な情報を短時間に拾い出していくトレーニングを新聞記事の読解を通じて積み重ねる。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅱ	文法事項や語彙の整理と、新聞記事を読むことを隔週で行う。特に新聞記事のスキャンングを通じて、必要な情報を短時間に拾い出していくトレーニングを重視する。また、与えられたテーマで意見文を書く練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅲ	日本語能力試験N2を受験することを前提として、その準備を行う。授業は過去問や標準的な能力試験対策用の練習問題を解くことが中心になる。出来るだけ多くの問題練習をするつもりである。7月の能力試験終了後は学期末まで、少し長めの新聞記事を読んだり、意見文を書いたりする。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅳ	日本語能力試験N1を受験することを前提として、その準備を行う。授業は過去問や標準的な能力試験対策用の練習問題を解くことが中心になる。出来るだけ多くの問題練習をするつもりである。12月初旬の能力試験以降は、長めの新聞記事を読んだり、意見文を書く予定。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅴ	より高度な文法事項と語彙の習得、敬語の正しい使い方、やや専門的な新聞記事の読解、自分の考えを明確に表現する文章を書くなど、こういった訓練はまだ不足していると思われる。この授業は以上の各ポイントに重点を置き、能力試験N2～N1レベルの総合的な日本語力を身につけたい。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本語Ⅵ	N1レベルの文法・語彙の習得と新聞記事、小説の読解、文章の書き方を中心に、総合的な日本語力を身につけたい。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本事情Ⅰ	日本の年中行事、気候、食料生産、工業、貿易など社会人としての常識から学び、さらに食料の自給率、食の安全、TPPへの参加、少子高齢化、消費税、年金問題など現代の日本社会におけるさまざまな話題に注目し、新聞記事や実際の調査を通して、幅広く学んでいきたい。	
1群科目	基幹科目群	語学系	日本事情Ⅱ	現代の日本社会の「常識」を習得と同時に、今の日本社会におけるみんなの「関心事」に関心・意欲を持って学び、社会の一員として積極的にかかわるようにしたい。	
1群科目	基幹科目群	情報系	情報リテラシー	大学における学習に必要な（最低限の）情報コミュニケーション技術の知識や技能を習得するとともに、それらの活用の際に、留意すべき知識や態度を身につける。	
1群科目	基幹科目群	情報系	情報社会とメディア	社会における情報コミュニケーション技術の役割、情報コミュニケーション技術が社会や個人（特に、子ども）に与える影響など、情報社会における個人・技術・社会の関わりについての知識を習得する。	
1群科目	基幹科目群	情報系	情報技能演習Ⅰ	情報リテラシーの学習成果を踏まえ、文書処理を中心とした教材・教具の作成や活用に必要な情報コミュニケーション技術の基礎・基本を習得する。	
1群科目	基幹科目群	情報系	情報技能演習Ⅱ	情報リテラシーの学習成果を踏まえ、表計算処理を中心とした教材・教具の作成や活用に必要な情報コミュニケーション技術の基礎・基本を習得する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	ことばと表現（書きことば）	自分の考えを正確に相手に伝えるための道具としての書きことばについて、その典型的な用例や表現を鑑賞することをとおして、文とは何かにはじまり、文章作成に使用する諸符号、表現上の注意といった文章作成の基礎・基本を学ぶ。さらに、文章とは何のために書くのか、文章はなぜ書くのかといった文章の存在意義を理解し、日常の文章や、手紙文、レポート、電子メールといった場面で、自分の考えを文章によって、誤解なく伝えることができることを目指す。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	ことばと表現（話しことば）	人と人とのコミュニケーションの道具としての話しことばについて、日本語としての豊かな生き生きとした表現や、敬語表現、その表現を自分のものとして、自分の言葉で自分の考えを表現できるようにすることを目指す。発声法や、母音、子音のアクセントについて学ぶと同時に、時代と共に変化することばの魅力や、何のために話すのか、どう話すのかといった話すことの意義を理解し、「ことば」は「思考」の源であることを自覚することで、魅力ある話しことばを求め続ける意識を身につける。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	社会学概論Ⅰ	社会学は、複雑な社会を読み解き、常識がどのように作られるかを考察できるように独特の「考え方」を開発してきた。近代以降の欧米の社会学説史を踏まえ、人間と社会を客体(客観)視して社会学の考え方が生まれたこと、専門分化が進み、様々な抽象概念が作られたこと、使用する言語によって捉えられた社会像がことなることを学ぶ。前半は欧米の社会学の考え方、後半は、日本独自の社会学説について考え、今生きている「社会」と深くかかわる感覚を得ることをめざす。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	社会学概論Ⅱ	この講義では、社会学概論Ⅰで学んだ社会学の考え方を活かしつつ、様々な分断されがちな社会に関する知識を統合することを目指す。市民社会は、できる限り多くの人々が読み書き能力を持ち、対等に議論する力を持つことを前提にして成立している。日本人の読み書き能力獲得の過程について、世界一大きな出版産業と書店の集積である、地域社会神田神保町がどのように形成されたのか、具体的な歴史の事実と地域社会の事例を分析しながら社会的に理解することを目指す。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	法学概論	市民として、国民として、現代人として、しなやかにそしてよりよく生きるために、私たちの生活と密接なさまざまな法制度について、憲法をはじめ、民法、刑法、国際法等をひろく理解することが授業の内容である。具体的な時事問題を通して、市民、労働者、子ども、高齢者、障害者等のさまざまな人に対して、どのような法制度によって人権擁護がなされているかを学習する。なお、児童虐待防止法、後見制度、更生保護制度等、近年新たに設けられた、あるいは改正された制度についても学習する。授業の形態は講義形式で行うが、学生の報告を適宜取り入れる。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	経済学概論	経済学の初歩を学ぶことによって、経済的な考え方、方法論を知ることが目的である。どんな職業の人も食事を摂ったり、衣類を着たり、生活していかなければならない。会社や政府も資源を使って活動する。だが、資源には限りがある。社会は資源をどうやって選択し、分かち合っているのだろうか。経済学は、世の中での価値の生産と分配の仕組みに、一定の法則を見出そうとしてきた学問である。市民社会の成立から始まった経済学の流れを追いながら、概説していく。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	政治学概論	政治学の基礎概念・基本的語彙から政治学の進展、また主要な領域における知識まで、初学者にわかりやすく説明する。広範囲にわたる知識習得を求めることになるため、授業に集中することに困難を覚える受講生が出てくる恐れもあるが、それを避けるために、適切なものであれば現実の政治の世界などに具体的事例を求める工夫も心がて講義を行う。受講生には、新聞などを通じ、日ごろから政治・経済・社会・国際情勢を把握しておくよう求める。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	自然科学概論	日本の発展を支えてきたのは「(自然)科学」であり「技術」であった。それにもかかわらず世の中には「(自然)科学嫌い」や「科学・技術は苦手」と言う人が多い。そうした意識を払拭し、科学・技術を社会に必要な知識とする心を育てる。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	哲学概論	この授業では、学生ひとりひとりが自分自身で考える能力を身に付けることを目的とする。哲学とは、単に過去の「偉大」な哲学者の名言を学習することではなく、それらの思想が現代のわれわれの生活をいかに無意識なままに規定しているかを知り、それに対して「自分で」考えることを意味する。現代社会の基礎をつくった近代思想を批判的に再考しつつ、哲学の本義である「知への愛」を身に付けることが求められる。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	数学概論	数学の基礎となる論理的な思考能力や数式の運用能力を伸ばすとともに、大学で数学を学ぶことの意義の考察、数学の各分野の体系的な把握、数学史を通じての知の探究などを行う。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	生物学概論	生物学にかかわる知識は、環境や医療、さらには食糧問題など、現代社会を取り巻く様々な課題を理解するために欠かせないものである。本授業では、ミクロ視点での生物現象を取り上げるだけでなく、生物と環境の相互作用など複雑系の生物現象をマクロ視点で解説する。また本授業では、単に知識として生物現象の仕組みを理解するだけでなく、観察や実体験などを通して、生物学の視点から実社会を捉える視点を身につけることを目的とする。	
1群科目	基幹科目群	基礎学問系	日本国憲法	第一に近代および現代憲法について、成立の歴史と原理を学習する。第二に日本国憲法の成立過程と特質を学習する。第三に基本的人権および統治機構について、時事問題を取り入れながら学習する。人権総論として個人の尊重および公共の福祉との関係について、人権各論として精神的自由権を中心とする消極国家的人権および生存権を中心とする積極国家的人権について学習する。統治機構については、三権のありかたを主として学習し、財政および地方自治を含む現実の諸問題を理解する。なお、授業の形態は講義形式で行うが、学生の報告を適宜行う。	
1群科目	基幹科目群	現代日本理解系	日本経済論	ナマの経済活動を素材に経済を分かりやすく解説する。社会に出ても困らないように手助けするのが狙いである。いま起きているのはどんな事なのか、気分や感性ではなく、経済理論の尺度から考えられる学生を要請する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	現代日本理解系	日本政治論	<p>政治の行く末が、私たちの生活に大きな影響を与えることは言うまでもない。そのため、私たちは正しい政治の情報を常につかんでいく必要があるわけであるが、そういう国政の情報を私たちは大体、新聞・テレビなどのメディアから得ている。しかし、客観・中立であるべきメディアの政治報道も時によってはバイアスがかかることもある。</p> <p>この授業では、日本政治の正しく知るとともに、メディアが伝える政治報道の実態にも迫っていきたい。</p>	
1群科目	基幹科目群	現代日本理解系	国際社会と日本	<p>国際社会のなかにおける日本の位置、立場、役割、方向をできるだけ具体的な時事問題に即しながら探ることが、授業の基本的な目標である。その際、国際社会それ自体の変容ぶりについて理解することが重要になる。ヒト、モノ、カネ、情報が激しく動くグローバル化の圧力と、そのこととも密接にかかわっているハードパワーの消長——。受講生には、このような国際社会の現在を正確に認識したうえで、日本が直面する課題について考える習慣を身に付けることを目標に講義を行う。</p>	
1群科目	基幹科目群	現代日本理解系	科学と社会	<p>現在ほど科学・技術の恩恵を受けている時代はない。にもかかわらず、多くの人々の科学・技術への関心は低いか、あるいは難しいと行って理解しようとしめない。これがインチキ科学、えせ科学が世の中にはびこる原因ともなっている。また、経済成長とともに新興国の科学・技術も無視できないものとなってきている。社会を変える原動力ともなった科学・技術の姿を、政治や政策を含めて見てみる。</p>	
1群科目	基幹科目群	現代日本理解系	現代の社会福祉	<p>経済成長が鈍化している日本において、生活の質を維持向上することが難しい状況にある。そこで、日本および各国の社会福祉の歴史の変遷を比較しながら見ることで、現代社会における社会福祉の意義について学び、未成年者、高齢者、障害者の生活の具体的状況を把握し、社会福祉の政策・制度の概要を理解すると共に、現代日本の社会福祉が直面している人口の高齢化による財源の確保やサービスの低下などの深刻化する課題と展望について考える。</p>	
1群科目	基幹科目群	多文化理解系	文化人類学概論	<p>ディズニーランドから美人、ゴミ、ウンチまで、何でも学問してしまう文化人類学という知的エンタメの楽しさ、大切さを伝える。熱帯ジャングルの少数民族ヤップ、東洋西洋の文化が渦巻く国際都市香港、多民族混住のニュージーランド、豪雪に暮らす新潟・津南、日本海の離島隠岐など生活体験による調査や、ソウル、東京、大阪、京都の調査を通して、「人間、世の中、自分という人類最大の謎」を探検する文化人類学を学ぶ初心者向けの授業である。</p>	
1群科目	基幹科目群	多文化理解系	ヨーロッパの文化	<p>ヨーロッパ文化（フランス中心）のさまざまな側面に光を当てる。この地域は歴史の宝庫ではあるが、単に人類の思い出の地にすぎないというのではなく、いまなお各種文化領域において評定者としての権威を保ち、また新しい文化価値の創造の場であり続けている。一見、難易度の高い内容ではあるが、本授業は、初学者向けの内容とし、歴史、地理、文化、人物などにつき分かりやすく解説するものである。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
1群科目	基幹科目群	多文化理解系	アメリカの文化	主に講義形式で授業を進めていくが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れていく。映画を通じてアメリカの文化の特徴を理解できるようになること、また、アメリカが抱えている社会問題にも目を向け、文化とのつながりを理解していくことを目標とする。授業では、「アメリカン・ドリーム」「ボランティア活動」「音楽」「メルティング・ポット」「銃規制と銃社会」などを取り扱う予定である。	
1群科目	基幹科目群	多文化理解系	アジア・オセアニアの文化	アジア・オセアニアの文化は、ニュージーランド海外研修に行った経験もふまえて、オセアニア地域の暮らしや文化、マスメディアの状況についてより深く研究するための方法や情報分析を行うことを目的としている。 特に環太平洋文化の特徴や、地域文化とマスメディアの役割、英国文化とポリネシア文化との融合、商業活動と日本との経済関係などについて具体的な事例や映像教材などを使って、魅力的な授業を行えるよう努力したい。	
1群科目	基幹科目群	多文化理解系	異文化コミュニケーション	マクドナルド、カレー、ラーメンといった食文化など、身近な異文化を材料に、日本人が異文化とどう出会い、かかわってきたのかを考える。さらにニューヨーク、ニュージーランド、香港、横浜中華街、新大久保、大阪コリアンタウンといった異文化が出会う最前線を探る。それによって、世界と日本を理解し、しっかりと自己認識を持った人、世界や日本を外から見られる、視野の広い「大物」になることを目指す。	
1群科目	基幹科目群	体育系	健康・スポーツ科学	スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに現代社会とスポーツのかかわりについて現状と課題をあげて考察する。スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ運動生理学、スポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに、わたくしたちの生活の中でスポーツや身体運動とどのようにかかわっていったら良いのか考察する。健康を維持向上させるための方法を、球技系健康系および実習の授業の実践を通して学ぶ。	講義：9時間 実技：6時間
2群科目	人間力向上科目群	地域連携系	地域ボランティアプログラムA	この授業の目的は、(1)地域貢献の意義と役割を実感できる。(2)プログラム参加者とコミュニケーションを円滑に取ることができる。(3)自分の体験を他者に正確に伝えることができる、の3点ある。地域ボランティアプログラムに参加することにより、地域貢献に参加する意義を体感する。また、自己の存在意義を再確認するとともに様々な機関との連携の在り方について考えることができる。 ボランティア活動時間を最低40時間に設定し、活動の継続性を担保している。実際の活動の他に、事前講座3回、中間報告会2回、事後講座2回、総括・評価1回の計8回の座学により、体験の深化と共有化を図る。	
2群科目	人間力向上科目群	地域連携系	地域ボランティアプログラムB	この授業の目的は、(1)地域貢献にあたり、様々な機関との連携が大切であることを実感する、(2)プログラムを企画立案する経験をする、(3)様々な地域ニーズがあることを知る、(4)組織の在り方、運営方法に関心を持てる、の4点にある。地域を活動の場とするボランティアプログラムに参画し、ボランティアプログラムの企画立案・実施を主体的に中心となって行うことにより、活動継続の工夫及び様々な機関との連携の在り方について体験を通じて考える。ボランティア活動時間を最低40時間に設定し、活動の継続性を担保している。 実際の活動の他に、事前講座3回、中間報告会2回、事後講座2回、総括・評価1回の計8回の座学により、体験の深化と共有化を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	人間力向上科目群 地域連携系	地域ボランティアプログラムC	この授業の目的は、(1)公共の精神を実感的に理解する、(2)ボランティア活動の地域における意義と役割を実感する、(3)自己の体験を、将来の人生設計に生かす見通しを持つ、の3点にある。公共の精神を育成するとともに、自己の就職を含めた人生設計に役立たせる。 地域における公共的活動(市との協力事業、学校ボランティア、NPO法人主催の活動、等)に関するボランティア活動に参加する。参加活動の決定は、所定の手続きによりボランティア登録を行い、地域からのボランティア活動への参加要請に従い自己の関心の高い活動を選択することによる。 ボランティア活動時間を最低40時間に設定し、活動の継続性を担保している。実際の活動の他に、事前講座3回、中間報告会2回、事後講座2回、総括・評価1回の計8回の座学により、体験の深化と共有化を図る。	
2群科目	人間力向上科目群 キャリア系	キャリアデザイン・基礎	大学生生活の目標の一つである、よりよい社会人となるため、さらには就職活動の基礎を構築することを目標とする。そのために、将来的な目標や目的を持って、充実した大学生生活を過ごしてもらうために、1年次生を対象に実施している。社会人基礎力、さらには若年者就職基礎能力を養うために、「職業人意識」、「社会人常識」、「コミュニケーション能力」、「ビジネス文書」、「計算・計数」および「ビジネスマナー」の6領域において講義を進める。	
2群科目	人間力向上科目群 キャリア系	キャリアデザイン・応用	キャリアデザイン・応用の科目は、体験就業としてのインターンシップに参加するために必要な知識や技能の習得を目指す。就職先の選択に不可欠な業種や職種についての基礎知識からはじまり、社会人として必要なさまざまなマナーを単なる知識としてではなく、実際に実行できる技能として修得し、ビジネスの場に参加できるようになることを目指す。そのため、授業は講義だけではなく、ロールプレイなどを多く取り入れる。	
2群科目	人間力向上科目群 キャリア系	キャリアデザイン・総合Ⅰ	キャリアを構築するうえで、必要な知識を習得してもらうことを目標として、就職活動を直前に控える3年次生を対象に実施する。まず、卒業後に就職することを前提として、現在の就職事情について理解してもらい、自分がどんな職業に興味があるのかを「VPI職業興味検査」から参考にしてもらう。その後、業界研究講座・職種研究講座をとおして、卒業後の働き方について理解を深めてもらう。さらに、本学学生の就職先に多い業界を中心に、その産業の特性、今後の展望、企業の経営概要、企業が求める人材像などについて、業界企業の役員・幹部クラスから講義を受ける。また、働くときに必要な基礎知識として、労働法や社会保険についても学ぶ。	
2群科目	人間力向上科目群 キャリア系	キャリアデザイン・総合Ⅱ	就職活動に向けての進路選択、業界知識、総合的な適性検査、面接試験などに必要な実務知識・スキル(エントリーシート記入等)について学修する。同時に、前期総合Ⅰにおける産業研究を、本学OB等の実務者を交えて継続する。	
2群科目	人間力向上科目群 キャリア系	インターンシップ	学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、人生設計の中で重要な、自分の職業観の確立と、自分の目的とする職業への就業、職階へのスキルアップの実現のための計画を明確化することを目的とする。研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標の実現に向けた第一歩を踏み出す。	
2群科目	メディア科目群	メディア活用論Ⅰ	教育にかかわる多様なメディアの特徴を知るとともに、教育指導や学習支援のためのメディアの利活用にかかわる知識、技能、態度を習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目目	メディア科目群	メディア活用論Ⅱ	メディア活用論Ⅰの学習成果を踏まえ、具体的な授業例等を通して、より良い利活用の方法を提案できるようになる。	
2群科目目	メディア科目群	こども教材開発論	<p>これからの知識基盤社会を生き抜いていかなければならない子どもが、コミュニケーション活動により他者との関係を構築したり生活の場としての環境と相互に作用したりすることで、感性を育み、情緒を養うとともに、興味や関心を広げられる様にするためには、教育的な配慮の下、環境をより良く構成することが大切である。</p> <p>そのためには、教師が、自らの教育行為の意図を明確化するとともに、費用対効果等も鑑み、より良い環境を構築するための構成要素となる遊具や教具などの教材の特徴を知るとともに、子どもや地域の特性を活かし、それらをより良く活用できる様に改善・工夫することが必要である。</p> <p>ここでは、教材をより良く改善・工夫できるように必要となる知識や技能を、身のまわりの教材、視聴覚教材、情報コミュニケーション教材などの具体的な題材を通して、それらの特徴を分析し、改善・工夫し、活用するまでの過程を経験することにより必要な知識や技能の修得を目指すとともに、教材活用にかかわる評価力等も養う。</p>	
2群科目目	メディア科目群	こども教材開発演習	<p>「こども教材開発論」の学習成果を踏まえ、いくつかの典型的な実践場面を想定し、具体的な教材の特徴を分析・評価し、改善・工夫し、活用するまでの過程を経験することにより、事前指導や実習に向けて、遊具や教具などの教材開発にかかわる知識や技能の定着をはかる。</p> <p>ここでは、身のまわりの教材、映像資料等の視聴覚教材、積極的な相互作用をともなう情報コミュニケーション教材など、様々な教材を取り上げ、それらの特徴を体験的に知るとともに、教材活用にかかわる評価力等も育成する。</p>	
2群科目目	メディア科目群	こども情報測定評価論	「こどもの観察と分析」、「教育方法学（初等）」などの学習成果を踏まえ、子どもの遊びやコミュニケーション活動や教師による教育行為など、ポートフォリオの構成要素となる教育実践の場において発生する様々な教育情報を測定・記録するための概念（尺度水準や誤差）や方法、並びに、測定・記録された教育情報を分析・評価するための手法を学ぶ。さらに、それらを実際に活用する際の留意点等について（具体的な題材を通して）取り扱う。	
2群科目目	メディア科目群	こども放送番組論	教育用放送番組や放送系メディアを中心としたコンテンツの教育利用などの特徴や留意事項などを知識を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目 コミュニケーション科目群	こどもコミュニケーション論	<p>こどもの健全な育成を図るため、個人を正確に理解し、環境を計画的に構成し、子どもの主体的な活動を直接援助することにより、必要な事柄を的確に伝える技術を身につける。そのために、自らの体験を子どもの教育・保育に関する学びにつなげるために必要な、教育学、保育学、社会学・社会福祉学、心理学といった相互に近接した領域を体系的に学ぶ上での基礎を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 木村 文香・⑫ 金井 雅子・⑤ 松田 清美/3回) (共同)</p> <p>3回の共同での授業のうち、1回はオリエンテーションであり、2回は総括である。オリエンテーションでは、「こどもコミュニケーション論」の概要の説明と学ぶ目的の確認を行う。総括では、目的が達成され、学びが体系化されたかどうかを確認し、学んだことを定着させる。</p> <p>(⑥ 木村 文香/4回)</p> <p>臨床心理学、社会心理学の立場から、生涯発達の考え方に基づいた、社会性やパーソナリティの発達、およびその評価等について学ぶ。</p> <p>(⑫ 金井 雅子/4回)</p> <p>社会学・社会福祉学の立場から、子どもと子どもを取り巻く社会について、特に問題が生じた場合の対応とその技術、およびその背景にある理論について学ぶ。</p> <p>(⑤ 松田 清美/4回)</p> <p>教育学、保育学の立場から、子どもの教育、保育の現場において最低限必要な、発達の知識や、各発達段階に見合った環境の構築の基礎を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
2群科目 コミュニケーション科目群	コミュニケーションの心理学	<p>子どものケアに際しては、対子どもだけでなく、対保護者、同業者同士、関連機関それぞれとのコミュニケーションなど、様々なシチュエーションでのコミュニケーションの必要が出てくる。そこで、この授業では、communicationとは何か、relationshipとの違いは何か、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルとは何かといったことを、対人関係に関する社会心理学や臨床心理学の理論的な側面から学ぶ。またあわせて、定型発達のことだけではなく、発達障害をはじめとする、コミュニケーションに困難を抱える状態にある人たちについても理解を深める。</p>	
2群科目 コミュニケーション科目群	こどもの観察と分析	<p>子どもに関する研究法の基礎を学んだ上で、観察法やインタビュー法、実験法、質問紙法から、適切な手法を選択する力を身につけることを目指す。さらに、子どもを対象とした調査研究において、よく用いられる手法や、具体的な測度を実践的に学ぶ。子どもの心的発達を理解するのに必要な量的、質的の両側面から理解し、子どもを実践研究に用いることができるようになる。</p>	
2群科目 コミュニケーション科目群	グループアプローチ	<p>グループアプローチは、集団心理療法に代表される、グループダイナミクスを用いた心理的援助方法のことである。保育、幼児教育、初等教育はいずれもグループダイナミクスの働きやすい場である。前半は、受講生自らがグループでの体験を共有しながら、自己理解、他者理解を深める機会とし、後半は、グループリーダーとしての機能や役割を実践的に身につける場とする。また、予防・開発的なカウンセリングについての理解やコミュニケーション能力の向上、リーダーシップのあり方についても学んでいく。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	コミュニケーション科目群	こどもと読み聞かせ・児童文学	絵本や童話、児童小説などを実際に読みながら、児童文学に関する基礎的な知識を整理し、児童文学の特質について理解させる。そのために、児童文学の代表的な作品を読ませ、自分の体験を通して、児童文学の持つ力を感じさせる。また、児童文学の持つ力を子どもたちに伝える手段としての読み聞かせという観点から、そのための基本的な技能が身に付けられるよう授業を行う。さらに、子どもの発達段階との関係を常に踏まえた授業となるよう配慮する。授業形式は、演習を中心とし、必要に応じて講義を入れる。	
2群科目	コミュニケーション科目群	こどもと読み聞かせ・絵本	絵本には目的に従って生活絵本・ファンタジー・科学絵本等がある。その内容設定やストーリー展開、装丁の工夫等について、多くの絵本に触れながら多面的に学ぶ。そして絵本の魅力をさまざまな視点から実感することを出発点にして、絵本の良さを伝えるための読み聞かせの技術や配慮事項について、実践的に考察する。さらに絵本を創ったり、絵本の読み聞かせを行う演習を通して、聞き手（子ども）の想像力をはたかせる読み聞かせのあり方や読みの技術について考えを深め、本を大切に作る気持ち、絵本を愛する心を育む。	
2群科目	コミュニケーション科目群	こどもと読み聞かせ・メディア	絵本を含むさまざまな創作物が、データ化され配信される時代になった。そのデータに対応するメディアの発達史を押さえ、現代の子どもをめぐる環境の在り方を知る。作品を通して、アニメーション表現の多様性について理解を深めていく。そして、実際にメディアによるアニメーションを視聴することにより「観る」「感じる」「考える」といった観点から、アニメーションの独自性や固有性を捉え、絵本の読み聞かせとの相違を考察する。	
2群科目	コミュニケーション科目群	こどもと文学	近代から現代にかけて評価されてきた代表的な児童文学作品や絵本を読み、時代的な背景を踏まえた上で、それらの作品を評価することができるような力量を身に付けるとともに、これからのこどもの文学はどうあるべきか、自分の考えが持てるようにする。	
2群科目	コミュニケーション科目群	詩歌創作	こどもの素直な気持ちを理解するには、自らも素直な心の表現が簡潔にできなければならない。その手段として「万葉集」にみるような素朴で純粋な表現方法を短歌創作や童謡創作を通して学ぶ。	
2群科目	コミュニケーション科目群	こども演劇創作演習	子どもを対象とした演劇は、子どもの鑑賞体験を目的としたものの、子ども自身が創造や表現の主体となることを目的としたものの二つに大別できる。鑑賞の分野については、その歴史や哲学、具体的な作品を通しての効果や方法の工夫について学ぶ。創作演習の分野に関しては、既成の脚本を読んで何を子どもに伝えたいのかを考えて話し合ったり、児童文学作品をもとに、実際の上演用脚本をつくるなどのグループ活動を行う。さらに、その脚本を実演した後、意見交換し、子ども演劇に関する関心や思索を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	コミュニケーション科目群	こども文学創作演習	各自の自由構想によるこども向け物語や、昔話・地域に伝わる民話・神話などを題材として、こどもに語って聞かせるための物語や童謡を創作するとともに、それらの作品を用いてこどもに見せるための紙芝居・デジタルアニメなどを創作する。	
2群科目	コミュニケーション科目群	English Communicative Activities I	リスニング力を伸ばすことは潜在的なスピーキング能力を育てる。そのような目的を持つ子ども向けのリスニング活動について学び、体験する。活動内容は、外国語活動の雰囲気づくりとして教室でよく使われるクラスルーム・イングリッシュに慣れることを目的とした活動、TPR (Total Physical Response: 話すことより理解を優先させる方法) による言語活動 (聞いた言葉を身体全体で反応する活動)、「ヒントゲーム」などのリスニング・クイズ、ストーリー・テリング (「読み聞かせ」)、TPR Story (体を動かしてジェスチャーで話を表現する)、Open Ending Story (話の最後を子どもが創造する活動) など。	
2群科目	コミュニケーション科目群	English Communicative Activities II	英語による話し言葉を獲得するための子ども向けのスピーキング活動について学び、体験する。活動内容は、動作付きのアクション・ソング、英語のリズムを楽しみながら身につけるチャンツ、昔話を利用したジョイント・ストーリー・テリング (子どもが発話できるレベルの英語で、部分的にチャンツ風の台詞や替え歌を交え、発話しやすく工夫されている) など。	
2群科目	コミュニケーション科目群	English Communicative Activities III	子どものリテラシー能力を身につけるための活動について学び、体験する。アルファベットゲーム (並べ替え、ビンゴ他) やカードゲーム (カルタ、スペルゲーム、伝言ゲーム他) などアルファベット学習を促進させるための活動や語彙学習 (ジェスチャーゲーム、絵あてゲーム、連想ゲーム、パズル他) など文字を中心とした活動のほか、自然に文法的な気づきの力を育てるチャンキング学習、語彙ネットワークづくりを進める活動を行う。	
2群科目	コミュニケーション科目群	English LR Reading I	英語学習を進めるには良質のインプットに大量に触れることが必要であり、特に外国語環境にある日本では、インプットを得るためのリーディング活動は英語力全体の発達のために重要である。Leveled Readers (英語を母語とする児童・小学生向けの英語習得用段階別絵本・学習絵本)、Picture Books (お話の絵本) など多くの英語多読用図書を読み、親しむことを目指す。各自が自分に合った英語のレベルで自分のペースでできるだけ多くの本を読むことは、自身の英語力の向上にも寄与する。	
2群科目	コミュニケーション科目群	English LR Reading II	English LR Reading I の成果を踏まえ、Leveled Readers (英語を母語とする児童・小学生向けの英語習得用段階別絵本・学習絵本)、Children's Books (英語を母語とする主に小学生を対象とした児童書) など多くの英語多読用図書を読み、親しみ、本を読む楽しさを子どもに伝えられる指導者になることを目指す。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	生涯学習論	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、広く生涯学習に関する事項について学び検証する。また、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	フィールドリサーチ科目群	グループ体験	この授業では、野外を含む様々なフィールドにおいてグループワークを体験することで、感受性を高め、自らのポジティブ感情への気づきを促し、興味や疑問を抽出する機会とする。興味や疑問の抽出方法、または言語化による表現方法についても、具体的な体験を通して学ぶ。また、同級生との体験を共有は、関係性の強化につながり、集団アイデンティティの形成へと発展し、意欲的に学び続ける素地を作り、実習時の相互扶助のベースづくりや、就職後の同職種同士のスムーズなコミュニケーションスキルの獲得にもつながる。またそれだけでなく、身につけたことをお互いに強化しながら学び続けることが可能となることを促す。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	海外こども事情体験A (ニュージーランド)	日本の文化的な背景を生かした、伝統的な保育、教育の良さを知るためにも、国際感覚を持つことは大切である。そこで、この授業では、ニュージーランドでの最先端の取り組みを体験する。幼児教育、初等教育の現場に身を置くことで、海外での保育・教育事情について実践的に学び、そこで感じたり、得たりした体験を言葉にして伝える方法を学ぶ。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	海外こども事情体験B	アメリカでの子どもに関する最先端の取り組みを体験し、身につけることを目的とする。この授業での体験は、子ども達に最先端の取り組みができる場を提供する立場になる上で必要な資質を磨く場として位置づける。そのため、海外で子どもの教育において大切にされている野外活動プログラムやTherapeutic recreationを実際に体験し、言語・文化・障害の有無といった違いを越えたinclusionの考え方を実践的に学び、言語、文化、障害の壁を越えた協働やコミュニケーションの方法論を身につける。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	環境と教育	環境問題を自分の問題として考えることができるように、環境問題の「伝え方」「学び方」に焦点を当てて講義する。また、まちづくり活動、特にアメニティ・マップづくりを体験することを通じて、各自に環境教育のしくみを提案してもらおう。環境問題について、抽象的ではなく具体的に、他人事ではなく自分の問題としてとらえることができるための、教育の仕組みを提案できるようになることが目標である。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	社会調査法 I	この授業では、社会調査の基本的事項を学ぶ。社会調査の歴史と意義を学んだあと、さまざまな社会調査の種類を紹介する。量的調査の例として、国勢調査、世論調査、マーケティング・リサーチ、視聴率調査等について、その特徴と基本的な実施プロセスを理解する。また、フィールドワークなどさまざまな質的調査とその意義について学ぶ。こうしたことから、現在流布されている加工された情報を、各自が的確に情報判断する能力を身につける。	
2群科目	フィールドリサーチ科目群	社会調査法 II	社会調査法 I の履修の後、社会調査の方法を具体的に学ぶ。観察法・面接法（質的調査）と調査票調査（量的調査）の双方に視野をおくことにする。質的調査では、インタビューの方法、参与観察の方法、フィールドノートの作成、まとめ方等を学ぶ。量的調査では、調査の立案から始まって、調査企画と設計、仮説構成、被調査者の選定、質問文の作成、プリテスト、本調査、分析、報告書作成まで、一連の過程を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	フィールドリサーチ科目群	社会調査演習	この授業では、電話を題材に取り上げて、社会調査の一通りの手順を体験し学習する。機能や使い方、マナーが刻々と変化している携帯電話を中心に、受講生が「電話」に関連した具体的なテーマを設定し、調査票調査を実施する。仮説立案から調査票作成、標本抽出、調査、集計、分析、発表までの一連のプロセスを体験し、関連する各講義で学習した内容を実際に体験してみることで、社会調査に関する具体的な知識を身につけることを目的とする。	
2群科目	こども理解基礎科目群	保育原理	保育を学ぶ上で不可欠な基本的原理について取り上げる。前半では、保育の意義、目的を広義に学ぶ。続いて保育所保育に焦点をあて、保育の内容や方法について「養護と教育」「保育の環境」「発達過程」「保育課程」「家族支援」を中心に、保育所保育指針に拠りながら理解していく。後半では、保育の思想や歴史の変遷を学ぶことによって現代の保育や子どもをめぐる状況を多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力を養うことをめざす。	
2群科目	こども理解基礎科目群	教育学概論（初等）	本科目は教育職員免許法に基づく科目である。教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を学習する。 具体的には教育において基本となる子ども理解について発達と教育の場から考察する。また、欧米及び日本において、子どもあるいは教育についての認識がどのように発展・醸成されてきたのか、先覚者の言説・理論を中心に、幼児教育の祖を含め解説する。また、現代の欧米教育事情を国毎に概観すると共に、現代日本の教育課題については幼小連携等の就学前教育の現状と課題を中心に考える。	
2群科目	こども理解基礎科目群	教育制度論（初等）	本科目は教育職員免許法に基づく科目である。教育に関わる社会的、制度的、及び経営的事項について事例を参照しつつ総合的に学習する。 具体的には、公教育の組織原理について知り、その根幹である憲法26条及び教育基本法を逐条解説するとともに、公教育を維持・存続・発展させていく働きとしての教育行財政制度の現状と課題を考える。加えて、学校経営として、組織論及び教員の職務と法について幼稚園における事例を参照しつつ解説する。また、制度課題の事例として、幼小連携及び幼保一元化を取り上げ、今後の教育制度のあるべき姿を考える。	
2群科目	こども理解基礎科目群	児童家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。また、児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解すると共に、児童家庭福祉の制度や実施体系等、行政が行っている最新の事業についても学ぶ。また、その上で児童家庭福祉の現状と課題を整理した上で、児童家庭福祉の動向と展望を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	社会福祉	日本および各国の社会福祉の歴史の変遷を比較しながら見ることで、現代社会における社会福祉の意義について学ぶ。次に、日本における社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性や社会福祉の制度や具体的な実施体系等の日本の社会福祉政策、さらに社会福祉における具体的な相談援助の方法や利用者の保護にかかわる仕組みについて学習し、現代日本の社会福祉の動向と、人口の高齢化による財源の確保やサービスの低下など、深刻化する課題について思索を深める。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	相談援助	相談援助の概要や援助技術の理論的な背景について学習した後、ケースワーク、グループワーク、ソーシャルワークなどの援助方法や、そこで用いられる傾聴や受容などの具体的な相談援助の技術、さらに、インテークからアセスメント、プランニング、エバリュエーションに至る相談援助の具体的な展開について、グループを用いた援助手法を中心に学ぶ。また、併せて、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深めることを目指す。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	社会的養護	子ども・子育てをめぐる社会環境が大きく変化する中で、すべての子どもに良質な成育環境を保障し、子どもを大切にすることが求められている。そこで、現代社会における社会的養護の歴史の変遷からその意義を学ぶと共に、児童福祉との関連性、その制度や実施体系、児童の人権擁護や自立支援等について学習する。さらに、虐待を受けて心に傷をもつ子ども、発達障害、DV被害の母子などへの支援を行う施策へとその役割が変容しているのに対し、変革が遅れている日本の社会的養護の課題について思索する。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	保育者論	保育職をめざす学生を対象として、その職務の意義や内容について理解を深め、同時に意識や自覚を高めることを目的とする科目である。制度、歴史、具体的実践などさまざまな側面から保育者が担う役割を探るとともに、現代の保育職に不可欠な倫理観について理解する。また、これらに学生自身の幼少期、あるいは実習での体験や経験を重ね合わせることで「保育者を目指す自己」を見つめ、保育者としての基礎的なアイデンティティの構築をめざす。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	保育の心理学	保育の実践とのつながりを意識し、子どもの発達を理解することが目標である。事例を見ながら、発達心理学の基礎を学び、自己意識、他者との関係、情緒、認知、ことばといった側面から発達に関する理論的な理解を得る。発達は環境との相互作用によって起こるものである。扱う範囲は乳幼児期の発達を中心としながら、生涯発達の観点から発達のプロセスを押さえ、初期の環境を与える保育の重要性を考察する。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	幼児理解	幼児教育においては、発達の個人差を理解しながら、集団としての育ちについても考慮しなければならない。子どもの発達を理解したうえで、子どもの発達に応じた教育について考察し、実践的な知を得ることにつなげる。環境としての人やもの、学びを与える遊び、集団の関係づくり、発達に影響する社会文化的要因などのテーマから、より具体的に子どもの発達を捉える。そして発達を援助する教育者のあり方について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	こどもの保健A	保育や教育に必要な子どもの心身の発育発達、疾患や子どもを取り巻く環境・課題等について学び、子どもの健やかな成長のために必要な支援について理解することを目標に講義を行う。具体的な教授内容は、以下の6つである。1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義。2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健。3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応。4. 子どもの精神保健とその課題等。5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理。6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	こどもの保健B	こどもの保健Aで習得した知識をもとに、保育の場において適切に対応し実践できる基本的技術を習得することを目標に演習を中心とした授業を行う。具体的な教授内容は、以下の5つである。1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価。2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境。3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応。4. 救急時の対応や事故防止、安全管理。5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等。	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	こどもの食と栄養	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養。2. 子どもの発育・発達と食生活。3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境。4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題。5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
2 群 科 目	こども理解基礎科目群	家庭支援論	保育士の仕事として「保護者に対する保育に関する指導」がある。しかし、家庭生活を取り巻く社会的環境は刻々と変化おり、その指導は難しさを増している。そこで、家庭の意義とその機能について学び、家庭支援の意義についての理解を深め、子育て家庭を取り巻く社会的状況やその支援体制、あるいは子育て支援サービスの課題等を学習することで、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携ができるようになることを目指す。	
2 群 科 目	実践支援科目群	保育課程論	保育における計画の基本について、実践や評価のプロセスと関連付けながら学び、具体的に計画を作成する力を養う。1. 保育内容の充実と質の向上をめざす保育の計画と評価について理解する。2. 保育・教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程を理解する。これらを主たる目標としながら、子どもの主体性を尊重し発達を保障する保育はどうすれば実現できるのか、学生自身が考えることに重点を置く。	
2 群 科 目	実践支援科目群	保育内容総論	子どもの主体性を尊重し発達を支える保育内容について、基本的な考え方や理論を習得する科目である。保育実践に結び付けながら授業を展開し、保育者としての力量の基盤を培うことをめざす。以下を主な内容とする。1. 「遊びの重視」「環境を通して行う教育」など保育内容に関する基本的な捉え方や概念を理解する。2. 保育の目標・ねらいや子どもの発達との関連から保育内容を理解する。3. 保育内容を充実させるための計画、記録、評価（省察）の意義を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実践支援科目群	健康	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。2. 子どもの発達を「健康」を中心として「人間関係・環境・言葉・表現」の4領域も含めた観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	
2群科目	実践支援科目群	人間関係	「人間関係」を中心として、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。親、保育者、友だちとの関係の中で、子どもはどのように育つのか。自己主張、いざこざ、協同性、道徳性といった具体的な場面と関連づけながら理解を深める。さらに、保育者としての役割について考察する。「人間関係」について「健康・環境・言葉・表現」の4領域も含めた観点から捉え、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。	
2群科目	実践支援科目群	環境	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。2. 子どもの発達を「環境」を中心として「健康・人間関係・言葉・表現」の4領域も含めた観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	
2群科目	実践支援科目群	言葉	言語の発達と教育に関する講義、ミニ演習を組み合わせ、授業全体を構成する。ミニ演習では各種のグループでの言語活動を体験することにより、「ことば」の機能について実感的に学ぶ。子どもの言語発達を支えるさまざまな方法を学びながら、保育者自身が美しい言葉を身につけられるようにする。その中には聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語の4大能力を思考することを含んでいる。多様な言語活動や表現に積極的にチャレンジしてもらおう。	
2群科目	実践支援科目群	表現（音楽）	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「表現（音楽）」を中心として「健康・人間関係・環境・言葉」の4領域も含めた観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 3. 広く「音楽」という概念を捉えられるようになるよう、社会との関連の中から音楽を通した様々な価値観を、具体的な事例から学ぶ。 尚、授業は講義形式により進める。	
2群科目	実践支援科目群	表現（制作）	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。2. 子どもの発達を「表現（制作）」を中心として「健康・人間関係・環境・言葉」の4領域も含めた観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実践支援科目群	国語	国語の重要性とその役割についてまず理解させ、その上で、国語の特質及び国語教育の持つ意味を考えさせる。また、国語を教える場合の基本事項を「話す・聞く・読む・書く等」に分けて必要な知識・技能を身に付けられるよう授業を行う。特に表記の基本となる国語施策（「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「外来語の表記」等）については、基本的な考え方とその運用に当たっての考え方が身に付けられるよう配慮する。国語教育の中で、よく問題となる漢字の字形指導については基本となる考え方を明確に示す。授業形式は、講義を中心とする。	
2群科目	実践支援科目群	算数	幼少連携を踏まえた算数指導にかかわる内容や方法を取り扱う。具体的には、子どもの発達と算数（数量や図形）とのかかわりについて扱うとともに、複数の教科書等を比較・分析することで、発達にかかわる理論がどの様に具体化されているかを確認する。体験を通したそれらの活動を通して、算数・数学的な見方や考え方を検討する。	
2群科目	実践支援科目群	生活	講義では、今を生きる子ども達を取り巻く生活環境について考察しながら、生活科が誕生した経緯を踏まえて、学習指導要領をもとに生活科の目標と内容を理解するとともに幼児教育との連携についても理解する。さらに、生活科の教材、指導理論、具体的な指導方法と評価方法について学ぶ。演習では、生活科の授業をデザインして指導計画を作成したり、子ども達の指導に役立つ評価のあり方について話し合う。最後に、幼児教育との連携のあり方等生活科の課題について検討し、今後への展望をもつ。	
2群科目	実践支援科目群	体育	近年の保健体育に関する研究の成果を取り入れ、こどもの健康にとっての運動の重要性を認識し、生涯にわたって運動に親しむ資質能力の基礎を育て健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる知識・技術の獲得をめざす。	
2群科目	実践支援科目群	乳児保育	現代社会においてますます需要が高まっている乳児保育について理解を深め、保育者に求められる知識や技術を習得することをめざす科目であり、以下を主な内容とする。1. 子どもの最善の利益を守る立場から、乳児保育の理念と社会的役割を理解する。2. 乳児の心身の発達を学び、これを豊かに保障するための保育者の環境構成や援助について理解を深める。3. 乳児をもつ家庭の現状を知り、保護者との連携や保護者支援について理解を深める。	
2群科目	実践支援科目群	障害児保育	障害のある子どもについては、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を養うため、一人一人の障害の状態などに応じ、きめ細かな教育が必要であることを理解し、実践できる知識の獲得し、併せて障害のある子どもを取り巻く社会状況の現状と課題について理解することを目的とする。具体的内容としては、以下の5点を解説する。1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷、障害児及びその保育。2. 様々な障害について、子どもの理解や援助の方法、環境構成等。3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践。4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携。5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実践支援科目群	社会的養護内容	はじめに、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理を学ぶ。その上で、施設養護及び他の社会的養護の実際を知る。そこから、個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容についてシミュレーションし、その内容を受講生同士でディスカッションする。そのようなディスカッションを通して、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術を身につける。また、社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。	
2群科目	実践支援科目群	保育相談支援	はじめに保育相談支援の意義と原則、保護者支援の基本を学ぶ。その上で、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を身につける。さらに、保育相談支援の行われている場所を広げ、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についても学び、自ら行うことができるよう、ロールプレイ等を用いて技術を実践的に身につける。	
2群科目	実践支援科目群	教育方法学（初等）	子どもの学びをより良く促す役割を持つ教師という専門職は、自己の教育技術や方法を常に見つめ直し、同僚などとの研鑽に取り組む姿勢が求められる。その際、感覚や経験だけに依存せず、教育行為を対象とする工学的なアプローチに基づく研究方法が必要である。本授業では、基本的な教育技術である（言葉や文字、絵等による）情報の伝達に加えて、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法など、教師自身が（幼少連携を踏まえて）教育現場で、より良く成長していくために必要と考えられる知識と方法等を取り扱う。 また、本授業そのものを「教育方法を検討する“場”」と考え、各種の教授メディアや教授技術の利用を受講者に体験してもらう。具体的には、資料の提示、ビデオカメラ等による記録と分析、評価、遠隔学習等の経験を通して、それらの効果や特徴等を体感してもらうとともに、それらを教育方法の検討対象として捉え、自らの教育行為を評価するための観点を養うこともねらいとする。	
2群科目	実技科目群	身体表現の技術	子どもの身体表現にはどのようなものがあるかをまず理解し、身近な表現活動について整理する。見立てやごっこ遊び、手遊び、運動遊び、劇遊び等に見る子どもの身体表現とこころの動きについても理解する。さらに、子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。身体表現の基礎として、子どもの発達や運動機能について理解するとともに、自身の身体について意識し、互いの身体の動きにも敏感になる必要がある。保育者として子どもと一緒に表現できるような実践的技術を身につける。	
2群科目	実技科目群	声楽表現の技術A	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 声楽表現に関する知識や技術習得を目的とする。自分自身の身体と向き合い、身体まるごとで子どもの遊びを展開出来るようにする。歌うことを通し、保育者自身が表現者であるという意識で活動を行える身体づくりを目指す。 3. 表現活動にかかわる教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 尚、授業は毎時間、前半は講義、後半は演習の形式により進める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実技科目群	声楽表現の技術 B	<p>1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>2. 声楽表現に関する知識や技術の活用を目的とする。保育者自身の声楽演奏の基本的訓練を行うとともに、子どもの発達と運動機能、身体表現、声楽表現に関する知識の習得と、具体的活用法を実践する。声を使った表現を中心に、見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等に見る子どもの経験と保育の環境を構成する。子どもの経験や様々な表現と身体表現とを結びつける遊びを展開する。</p> <p>3. 表現活動にかかわる教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開を実践する。</p> <p>尚、授業では毎時間、演習の時間を設ける。</p>	
2群科目	実技科目群	器楽表現の技術 A	<p>1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>2. 器楽表現に関する知識や技術習得を目的とする。幼児教育に必要なレパートリーの習得、ピアノの初歩的な技術の習得を目指し、子どもを前に自信を持って音楽表現を展開できるようになることを目標とする。</p> <p>3. 表現活動にかかわる教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。</p> <p>尚、授業は毎時間、前半は講義、後半は演習の形式により進める。</p>	
2群科目	実技科目群	器楽表現の技術 B	<p>1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>2. 器楽表現に関する知識や技術の活用を目的とする。保育者自身の器楽演奏の基本的訓練を行うとともに、ピアノ伴奏を通し子どもの発達と音楽表現に関する知識の習得と、具体的活用法を実践する。子どもの経験や様々な表現と身体表現とを結びつける遊びを展開する。</p> <p>3. 表現活動にかかわる教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開を実践する。</p> <p>尚、授業は毎時間、前半は講義、後半は演習を形式により進める。</p>	
2群科目	実技科目群	造形表現の技術 A	<p>1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術。</p> <p>2. 造形表現に関する知識や技術</p> <p>(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術</p> <p>(2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開</p> <p>3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術。</p>	
2群科目	実技科目群	造形表現の技術 B	<p>1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術の活用。</p> <p>2. 造形表現に関する知識や技術の活用</p> <p>(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術</p> <p>(2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境の構成</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開</p> <p>3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開の実践。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2 群 科 目	実 技 科 目 群	絵画表現の技術A	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術。 2. 造形表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と絵画表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術。 	
2 群 科 目	実 技 科 目 群	絵画表現の技術B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術の活用。 2. 造形表現に関する知識や技術の活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境の構成 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開の実践。 	
2 群 科 目	実 技 科 目 群	言語表現の技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の目的と内容を理解し、子ども達の遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術 2. 言語表現等に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート等に関する知識と技術 (2) 子どもがよりよい児童文化に親しむための保育の環境について (3) 子どもの経験と表現を結びつける適切な遊びの展開について 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成、保育の環境デザインと具体的展開の技術 	
2 群 科 目	実 技 科 目 群	総合表現演習Ⅰ（演劇）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の目的と内容を理解し、子ども達の関わりあう遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術の活用を実際に体験しながら学ぶ 2. 総合的な表現、特に言語・アート・身体を結びつけて表現するための知識や技術、その活用を実践的に学ぶ 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境デザイン及び具体的展開、それらの実践力を養う 	
2 群 科 目	実 技 科 目 群	総合表現演習Ⅱ（オペレッタ）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 総合的な表現、特に声楽・器楽・言語・造形・絵画を総合した知識や技術の活用を目的とする。保育者自身がそれらに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、各々を結びつけ、遊びへと展開させていく判断力や創造力を養う。又、実際に子どもたちが行うことを想定し、共に表現していく指導法を模索する。 3. 表現活動にかかわる教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開を実践する。 尚、授業は毎時間、前半は講義、後半は演習を形式により進める。 	
2 群 科 目	実 習 科 目 群	保育実習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実習科目群	保育実習指導Ⅰ	1. 保育実習の意義・目的。2. 実習の内容、自らの課題。3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等。4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	
2群科目	実習科目群	保育実習Ⅱ	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。2. 子どもの観察や関わりを明確にすることで保育の理解を深める。3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。6. 保育士としての自己の課題を明確化する。	
2群科目	実習科目群	保育実習指導Ⅱ	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
2群科目	実習科目群	保育実習Ⅲ	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。4. 保育士としての自己の課題を明確化する。	
2群科目	実習科目群	保育実習指導Ⅲ	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
2群科目	実習科目群	教育実習（幼稚園）	教育実習は、教育課程の総仕上げの活動体験で、学外の実習園において保育その他の活動に参加しておこなわれる。教職課程で学び研究してきた事柄を実際の教育の場で経験し、教育の意義について体験的認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶ。	
2群科目	実習科目群	教育実習事前・事後指導（幼稚園）	実習は教育課程の総仕上げの活動体験であり、それを通して教員としての必要な知識、技術等の資質の高揚に努めることであるという、実習の意義・心得を事前により深く理解して実習に臨む準備をする。また、体験後の報告とまとめを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
2群科目	実践演習	教育・保育実践演習	1. 保育に関する科目横断的な学習能力。2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討。3. 問題解決のための対応、判断方法等。4. 必修科目（保育実践演習を除く。以下同じ。）及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。	
3群科目		こどもコミュニケーション基礎	日本内外の伝統的な作法を学び、ひな祭りや七夕といった日本の伝統的な行事の演出をグループごとに行うことで、その際に必要なグループ間の効果的なコミュニケーションについて考える。次に、そこで獲得したスキルを活かし、「こどもコミュニケーション演習（野外指導）」で行われる健康教育を取り入れたキャンプの準備を自分達が主体的に行うことにより、リスクマネジメントをはじめ、物品の管理や情報の提供など、レクリエーションを用いたグループワークに必要なマネジメントの重要性について理解し、現場で活用できるようになることを目指す。	
3群科目		こどもコミュニケーション演習（野外指導）	「こどもコミュニケーション演習（野外指導）」では、日常とは異なる自然環境の中での様々な野外活動を通じ、身体的な感受性を高め、五感で感じたことを、言語をはじめとするコミュニケーション手段で表現する技術を磨く。また、共同生活で生じる個人の不安や集団内の葛藤、ポジティブ体験に関する気づきを共有し、共感性を高めることにより、相互作用の活性化、さらには行動の変容を促すグループアプローチを体験することで、健全な対人関係の構築を促すために必要なコミュニケーションの在り方について学習する。	
3群科目		こどもコミュニケーション実習（野外指導）	「こどもコミュニケーション演習（野外指導）」で学んだ、グループワークの体験学習をもとに、「こどもコミュニケーション実習」では、こども（被援助者）を対象に、レクリエーション活動を用いたグループアプローチの企画や運営を実践し、その過程で抽出された問題点について解決する方法を学ぶと共に、その結果をまとめ、考察し、発表するスキルの習得を目指す。また、健康教育を提供する援助者の立場から、予防・開発的なカウンセリングについての理解やコミュニケーション能力の向上、リーダーシップのあり方についても学んでいく。	
3群科目		専門ゼミナール	こどもコミュニケーションに関する研究のための姿勢、研究方法の確立を目指し、原則少人数でディスカッションを交えて実施する。実験、観察、調査、文献資料等の客観的資料に基づく論理的思考の獲得を目的とする。	
3群科目		卒業研究	大学での勉学の集大成と位置づけ、こどもコミュニケーションに関する事象について、論理的に考え、まとめることを目指す。卒業研究テーマに基づいて、担当教員からの助言を得て、論文作成を行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この類を作成する必要はない。